

会員の広場



建設狂騒曲

坂本 正治（東京）

東京は建設ラッシュだ。我が家の近くでも様々な「開発」が進んでいる。それも凄いスピードで。身近なところでは、極小住宅。いつも行く図書館近くの住宅跡地が小割にされ、1フロアが僅か22㎡の住宅が2棟建つ。3階建てなので、階段スペース等も必要だ。それ

を考えたら1フロアにはせいぜい一部屋。住みにくいだろうなと思う。それに極小住宅は殆どが木造。隣家と密着しているの、地域の防災面では今までより悪化するの、は必定。

次に、賃貸アパート。地主が借金をして賃貸住宅を建てると相続税対策になるとして、住宅メーカーが猛烈な営業をかけ、貸出先に悩む金融機関が強力に後押しをしている。ちょっととした広さの土地の建築看板には「共同住宅」の文字が躍る。果たしてそんなに部屋の借り手はいるのだろうか？バブルの頃、「ワンルームマンション」ブームがあった。当時はサラリーマンまで借金をしてワンルームに投資したものだ。残ったのは自己破産の山。3番目が大型のマンション。さすがに、広

い土地が少なくなったことと、建設コストの高騰で、手掛けるデベロッパーも限られてきた。それでも都内に残された社宅や官舎の建て替えは盛ん。丁度、高度成長期に建てられた建物が老朽化してきたようだ。我が家の近隣でもNHKの社宅跡地で6階建てマンションの建設が始まった。また、住む人のいなくなった別の官舎には白い囲いが廻らされ、取り壊しも時間の問題だ。

そして、4番目にオリンピック関連施設。馬術競技が予定されている馬事公苑は家から歩いて15分。ちょうどいい散歩コースだ。公苑内の改造工事は真最中。メイン馬場の周囲にあった八重桜は切り倒され、憩いの場所だった池も埋め立てられた。完成予想図による

と、立派な馬場と観客席が出来る予定。多くの緑が残ることを願うばかりだ。

5番目が地域開発。最寄りのJRの駅は渋谷だが、今は巨大なクレインが立ち並び、次々と高層ビルが建ち上がっている。近い将来、今までは違った大繁華街に変身する予定だ。渋谷だけでなく、東京の中心部での巨大ビル建築は後を絶たない。東京駅近くでは完成後高さ日本一となるビルの工事も始まった。

先日、初めてスカイツリーに登った。足元に広がるのはどこまでも続く建物群。その迫力には言葉を失った。そして、東京の建設ラッシュは止まるところを知らない。一極集中のリスクは高まるばかりだ。